

令和2年度 都城市立川東小学校 学校評価報告書

( 4 期待以上 3 ほぼ期待通り 2 やや期待を下回る 1 改善を要する )

学校経営ビジョン		3C (Chance, Challenge, Change) の精神で教職員が良いと思うことを進んで実践し、児童が毎日元気よく登校し、生き生きとした学校生活を送れるような学校づくりに努め、児童や保護者、地域に信頼される学校を創造する。				
重点目標	評価指標	○取組の成果 ●課題・改善策	自己	関係	学校関係者評価コメント	次年度に向けて
確かな学力の向上	1 「分かる・できる」授業が工夫され、児童が主体的に学習に取り組んでいる。	○国語科、算数科、社会科を中心に読解力・表現力の向上のための指導の工夫・改善に取り組むことができたことで、児童の教科学習に対する意欲の向上が見られた。 ●その他の教科についても改善に向けて手立てを精選していく必要がある。	2	2	○児童の主体的な取組ができるようになるとうい。	○読解力・表現力の向上を目指した授業を全職員が行い、指導力の向上を図り、日々の授業で実践する。 ○基本的な学習習慣の定着と「自学力」の向上に努める。
	2 読書活動と音声言語活動の充実により、児童の読解力と表現力が向上している。	○図書館サポーターの先生との連携により、2学期の総貸出冊数 5668 冊を達成した。 ○図書館サポーターと連携した企画によって意欲的に読書に取り組んでいた。 ●読書の取組の個人差が大きく、読書量の少ない児童への手立てが必要である。また、本の扱い方について、指導を行っていく必要があった。	3	3	○学校から借りてきた本をそのまま返していることもあるので、借りた本は必ず読むように指導してほしい。 ○高学年になるにつれて図書館の本を読む機会が少ないように感じる。 ○図書館サポーターのおかげで図書室が見やすくなっている。予算があれば、新しい本を定期的に入れてほしい。 ○クラスごとに図書室に行くと友だちと情報交換ができ、読書意欲が高まる。	○図書館サポーターと連携し、本を読みたくなるような動機付けや環境づくりを推進する。 ○読書の記録を残し、児童に達成感を味わわせる。
	3 個に応じた指導の充実により、基礎学力が定着している。	○各学年において、習熟を図る時間を確保し学力の向上を図ってきた。高学年は特に、学びの確認を実施し、内容の定着を図り、概ね期待平均得点に達していた。 ●低中学年では難しかったので、3学期に学びの時間を設定していく。単元テストの得点も底上げを図っていく必要がある。	2	2	○各学年とも先生方の教えをしっかりと聞いている集中力が大事である。	○朝学習や学びの確認の時間を有効に活用し、学習内容の定着を図る。 ○学年部毎に家庭学習の進め方を示し、家庭と学校とで連携した取組ができるようにする。 ○ICT等を活用し、一人一人の学習状況に応じた指導を充実する。
豊かな心の育成	1 認め合い、支え合う仲間づくりができている。	○心のアンケートを基に、学級での教育相談の実施および、生徒指導対策委員会において、事例の報告・対策を検討した。深刻ないじめの事例は確認していない。	3	3	○学校や家庭での生活指導が大切である。 ○いじめについては、判断が付きにくい所があると思うが、注意深く見ていってほしい。	○毎月、心のアンケートを実施し、気がかりな児童については全職員で共通理解し、継続的な見守りと指導・支援を行う。
	2 心の教育の充実を通して、児童に規範意識と人権感覚が育成されている。	○挨拶、履き物そろえについての児童の自己評価は80%を上回ることができた。 ●廊下歩行についての自己評価は50%程度だった。特に、昼休み後、清掃に向かう時に、走る児童が多いことが分かり、3学期に向けて対策を講じる。	2	2	○あいさつができている状況が見られる。 ○あいさつをしない子も見られる。できれば、立ち止まってあいさつできるとよい。 ○学校外でのあいさつができない児童が多い。	○生活指導週間に、あいさつ、廊下歩行、履き物そろえ等について重点的に指導する。 ○学期末の心のアンケートとともに、生活習慣に関して児童に自己評価をさせ、意識付けを図る。
	3 児童に対人関係調整能力やコミュニケーション能力が育成されている。	○児童の自己評価では、80%弱の児童が敬称や傷つける言葉に気をつけていたと答えた。 ●高学年になるにつれて、評価は低くなっており、指導が必要である。	2	2	○特になし。	○学校行事、委員会活動、クラブ活動、児童集会等の活動で、学級、学年、全校での児童の関わり合いを計画する。
健康・体力の向上	1 児童一人一人の基礎体力が向上している。	○体力テストの代わりに、体育委員会の児童による体力向上プロジェクトを実施し、児童の意欲は高まった。 ●体育の時間の充実や外遊びの奨励など実践していく。	2	2	○コロナの影響もあり、自宅での生活が多くなり、地区の公園で遊ぶ子がいなくなって残念である。公園などで走り回ることも大切である。 ○家でできる体操（ストレッチ）を提案してもらいありがたかった。自宅で縄跳びの課題をさせたり、テレビを見ながらでもできることをさせてみたりするとよいのではないかな。	○体力テストで本校の課題となっている「柔軟性」や「敏しょう性」等の力を高めるために、体育科学習での「サーキットトレーニング」「朝のトレーニング」等を取り入れ、強化を図る。

	2 自らの健康に関心をもち、病気やけがの予防、バランスのとれた食事を摂ることに努めている。	○手洗いや消毒はほとんどの児童が習慣付いてきている。また、95%の児童が朝食を摂っている。 ●寒くなり、手洗いの回数が減ったり、仕方が雑になったりしていることがあるので、指導を継続していく。	3	3	○学校外での習慣はできていないこともあるようで、家庭でのしつけも大切である。 ○帰宅後のマスクの取り扱いなども指導してもらえるとよい。	○新型コロナウイルス感染症対策として、校内放送で音楽を流し、それに合わせて手洗いをを行うよう各学級で指導する。 ○給食指導や食育、「お弁当の日」の取組を通して、望ましい食習慣の形成に努める。
	3 安全教育や防災教育を通して、児童の安全意識や危機回避能力を高めている。	○命に関わる事故は起きなかった。 ●不審者対応の避難訓練については、今後実施方法についての検討が必要である。	3	3	○交通安全や地域安全については、かなり守られているように思う。 ○自転車で広がって乗っているので注意していかなければいけない。 ○毎年、不審者情報が多い。下校時の対策も必要である。	○危機管理マニュアルの見直しを行うとともに、より実践的な避難訓練や交通安全教室等を実施する。
家庭・地域との連携強化	1 HPや学校だより、参観日で、保護者や地域の方が学校の様子をよく分かっている。	○2学期はコロナ感染防止対策を講じながら参観日を行うことができた。集計をとった9月、11月については参観・懇談ともに出席率は50%を上回った。学校評価についても全体的に高い評価を受けていた。 ●今後も学校の情報を発信し、地域に信頼される学校づくりに努めていく。	3	3	○今年度はコロナの影響で子どもたちの姿を見る機会が少なく、判断が付かなかった。 ○ホームページやメール等で知ることができてよかった。	○教科担任制授業の実施や有意義な懇談会を工夫するなどの手立てを行う。 ○定期的なHPの更新や月1回以上の学校便りで学校の様子を知らせる。
	2 学校運営協議会と地域学校協働本部の連携と協働が進んでいる。	○新型コロナウイルス感染防止に努めながら、地域の方と一緒に活動できた。 ●熱中症のおそれがあるため、次年度以降、高学年は7月中に実施する。	2	2	○特になし。	○管理職、PTA、地域連携コーディネーターとの連携を進める。 ○学校支援活動や地域貢献活動について積極的に発信し、学校運営協議会のねらいや取組についての周知を図る。
	3 地域の人材や施設等を利用した学習が充実している。	○学校支援ボランティアを活用した学習を実施することができた。 ●第3学年は、地域人材を生かした単元を検討する必要がある。	3	3	○学校支援ボランティアの方々には本当にありがたいと感じる。 ○ミシンボランティアに参加したが、子どもたちが積極的に熱心に取り組み、ボランティアのやりがいを感じた。	○各教科の見通しをもちながら、各担任と連携して、地域の人材や資源、教材を行かした学習活動の計画を立て、実践していく。
学校の組織力の向上	1 業務改善により、職員がワークライフバランスのとれた働き方ができている。	○昨年度と比べると、月45時間以上の残業の職員数は減少している。(10名以下) ●職員全体の残業時間の平均は37時間程度であった。職員の意識改革も進め、メリハリのある仕事のスタイルを身に付けていく必要がある。	2	2	○先生方の苦労が毎年増えていっているように見て取れる。健康管理に気をつけて業務の遂行をお願いしたい。	○教科担任制の推進や会議の効率化などを通して、業務の改善と精選を図っていく。
	2 社会の要請を敏感にとらえ、教育活動の充実に向けて、授業力や生徒指導力を高めている。	○新学習指導要領についての研修は実施することができ、評価など考え方を共通理解することはできた。 ○学級が機能していない学級は見られない。どの学級もほぼ落ち着いて学習している。コロナ禍であったが、2学期までほぼ正常に教育活動が展開できた。	3	3	○授業内容が変わる中、先生方も指導の仕方を変えていかないといけなかったり、大変かと思いますが、どの先生も一生懸命子どもたちと向き合ってくださっていると思う。	○新学習指導要領のについての研修を進める。 ○管理職等による授業参観を通して、授業及び生徒指導の課題へ迅速に対応していく。
	3 職員がチームとなって情報を共有し合い、問題等への迅速・誠実・的確な対応ができている。	○学級担任、各主任、生徒指導主事、教務主任など連絡を密にして、情報を共有することができた。保護者対応でも学級担任等から先手先手で連絡を入れ、重大事態に発展するような場面はなかった。 ○学校評価により保護者の意見を聞き、学校経営に生かしている。意見についてフィードバックし対応している。	4	4	○特になし。	○学級担任と各部長、生徒指導主事、教務主任を中心としたミドルリーダー、さらに管理職がコミュニケーションをとり、情報の伝達と共有に努め、速やかな対応を進めていく。